



みんなで創る出雲の未来

～魅力あるまち・住みよいまち～



おわりに

現在、都市の中心市街地の衰退は、日本全国どこでも発生している大きな課題となっています。時代の流れの中で、人々の生活スタイルが多様に変化を遂げ、人の住む場所、生活を営む場所は、もはや駅前の中心部にとどまらず、非常に広範囲を生活エリアとしています。しかし、このまま中心市街地が衰退していくとまちはどうなってしまうのかを本事業で検証した結果、これから訪れる人口減少社会においてこのまちが発展していくためには都市の中核である中心市街地が活性化し、産業を育み、市の運営とまちの経済活動を正常に機能させていなければならない事が分かりました。

同時に、中心市街地の持つ魅力・強みといったものも数多く発見することが出来ました。例えば「交通網の集約」「公共施設の集約」「インフラの整備」「衛生的」といった既に整っているものもあれば、これからの可能性として「商業の集約と発展」「交流人口の増加」「シンボリックな建物」「文化の発信地」「活気を創出しやすい」等の魅力を見出すことが出来ます。こういった中心市街地の持っている魅力と強みを活かして、まちづくりを進展させていく事が、まちの再生へと繋がっていきと考えます。

そして何よりも大切なものは、そこに住み暮らしておられる市民の皆様一人一人が、まちの課題へ目を向け、私たちの住むこのまちの未来に夢と希望を持って頂く事です。今回、提示させて頂いた6つのまちづくりモデルは、理想論であつたり突拍子のない非現実的なものに見えるかもしれませんが、今回のまちづくり事業で学んだ事をふんだんに盛り込み、それぞれの考える『理想』と『夢』を追い求めた先の、正に『私たちが考える出雲市の理想像』です。そこには様々な仕掛けやアイデア、想いが散りばめられています。そしてこのまちづくりモデルを作成している時の姿は皆が笑顔で、心の底から楽しみながら意見を交わしておりました。私たちの住むまちの姿を夢想する事は、この上なく楽しい事でありました。

皆様には、是非とも身近な方々とこのまちの未来について、どのような姿であるべきか、どのようなまちが面白いかを熱く語り合っ頂きたいと思っております。その先に、出雲市の未来の更なる発展が待っているのではないのでしょうか。



6つのテーマで創る「出雲の未来」

出雲青年会議所とは？

出雲青年会議所は、1957年（昭和32年）1月23日に、全国で106番目の青年会議所としてこの出雲の地に設立されました。会員は25歳から40歳までの次代の担い手たる青年です。JC三信条「修練・奉仕・友情」のもと、地域活性化の柱となる「まちづくり事業」、地域のリーダーを育成する「ひとづくり事業」、地域の将来を担う次世代へつなげる「青少年健全育成事業」等を展開しています。

会員は日々の活動の中で自己の修練を積み、地域社会への奉仕の精神を養い、固い絆で結ばれた会員同士の友情を育みながら、経済・政治・国際・社会・文化等の諸問題について積極的に取り組み常にその時代に対応した運動を模索し「明るい豊かな社会」の実現をめざし活動することを目的とした団体です。



一般社団法人 出雲青年会議所 第60代理事長 内藤 祐馬

JCI 一般社団法人 出雲青年会議所

島根県出雲市有原町 1-44 TEL:0853-22-3700(受付時間平日 9:00-17:00)
mail:info@izumojc.com URL:http://www.izumojc.com/

出雲 JC 検索

より詳しい情報がご覧になれます



一般社団法人出雲青年会議所は7月10日(日)及び9月4日(日)の2日間で、まちづくり事業「みんなで創る出雲の未来～魅力あるまち・住みよいまち～」を開催しました。

この事業では、県内の大学生と出雲市民、そして一般社団法人出雲青年会議所のメンバーが、出雲市の中心市街地が衰退していく中で、中心市街地の持つ魅力と課題を発見し、このまま中心市街地の衰退が進めばどうなるのか、どんな改善策があるのかを考えて頂きました。実際に出雲市駅前の街並みを散策しながら、中心市街地の現状と課題、そして魅力を探して頂きました。

そして、まちを創り発展させていく為に必要な『まちづくりへの創造力』を養い、出雲市の未来が明るく豊かなものであろうとする為に、参加者の考える理想的なまちの未来像を創作して頂きました。



まちづくりモデルテーマ

雲太と水路の街 キャナルシティ出雲



道が全て水路でつながっている
若者・観光客が集まる街並み



雲太を再現した新幹線駅と出雲大社とをウォータースライダーで結び中心市街地を「田の字」に張り巡らされた水路でつないだキャナルシティ(水路の街)

街の施設

- ・雲太型出雲市駅(新幹線発着)
- ・雲太スライダー・遊覧船
- ・中町商店街アーケード
- ・水浄化施設・植物工場
- ・大学・酒蔵 など

街の特徴

- ・駐車場を市外に設け車道を廃止し、船または徒歩での移動によるCO2の削減、そして水路を生かした施設によるゼロエネルギー化など、環境に優しい街を実現します。
- ・大学、酒蔵、コンサートホールなど若者が集まりやすい環境になっており、街の珍しさから県外の方から海外の方まで観光に訪れてもらえると思います。



所見 この班には建築に造詣の深い人間が多く、立体的なまちづくりモデルを形成する事が可能でした。こだわったのは若い世代の人間から斬新なアイデアを引き出し、水路という発想をまちづくりモデルに取り込んだ事です。市民の皆様が驚いて頂けるよう頑張りました。



まちづくりモデルテーマ

オープンカフェのまち出雲



メインストリートを中心に西と東で和と洋の街並み
お茶呑み文化を発展させたカフェ
若者が集まりやすい街並み



出雲特有の文化である「お茶呑み」に着目し、地元住民・観光客の様々な縁を育む都市、古き良き文化と近代的な文化を融合させた情景豊かな街

街の施設

- ・全天候開閉式オープンテラス
- ・日本最大露天風呂 スパリゾート
- ・阿国座・出雲国技館
- ・オペラハウス・巨大アリーナ
- ・日本一の庭園 など

街の特徴

- ・街を東西に和と洋で分け、和のエリアでは庭園や茶畑から阿国座、国技館など出雲の伝統文化を発信し、高い建築物は作らず周辺には自然も残し景観や環境にも配慮しています。また、洋のエリアでは巨大アリーナやオペラハウスなど、洋の近代文化を発信しています。
- ・和と洋で様々な年代の方が訪れるこの場所で、出雲特有のお茶呑み話文化を通じ縁を深め、伝統や文化を感じる事の出来る街になっています。



所見 この班には女性が参加しており、カフェという若者や女性が楽しめるテーマを盛り込んでいます。都市機能よりも伝統文化やまちの雰囲気大切に、誰もが街中でゆったりと時間を過ごせる、そんな街を目指しました。

まちづくりモデルテーマ

相撲都市構想 出雲



街中の交通機関は路面電車

まち全体でカシと触れ合いがある街

相撲専門のお店や施設



「相撲発祥の地」出雲にちなみ、相撲競技を出雲の目玉として国技館を建設し、相撲専門の機関を充足させ、訪れた人が気軽に相撲に触れあえる街

街の施設

- ・国技館・相撲関連専門店
- ・相撲学校・相撲歴史館
- ・モンゴル大使館出張所
- ・スポーツクラブ・宿泊施設 など

街の特徴

・国技館や相撲関連商店、相撲部屋など相撲を前面に打ち出した街のつくりになっています。
 ・全国大会、出雲場所、世界大会などの様々な相撲大会を誘致し、「相撲発祥の地」出雲を世界中に発信することで、競技者や関係者、ファンの方々に相撲に寄り添った素晴らしい街だとPRすることが出来ます。これにより、人口増加に繋がります。

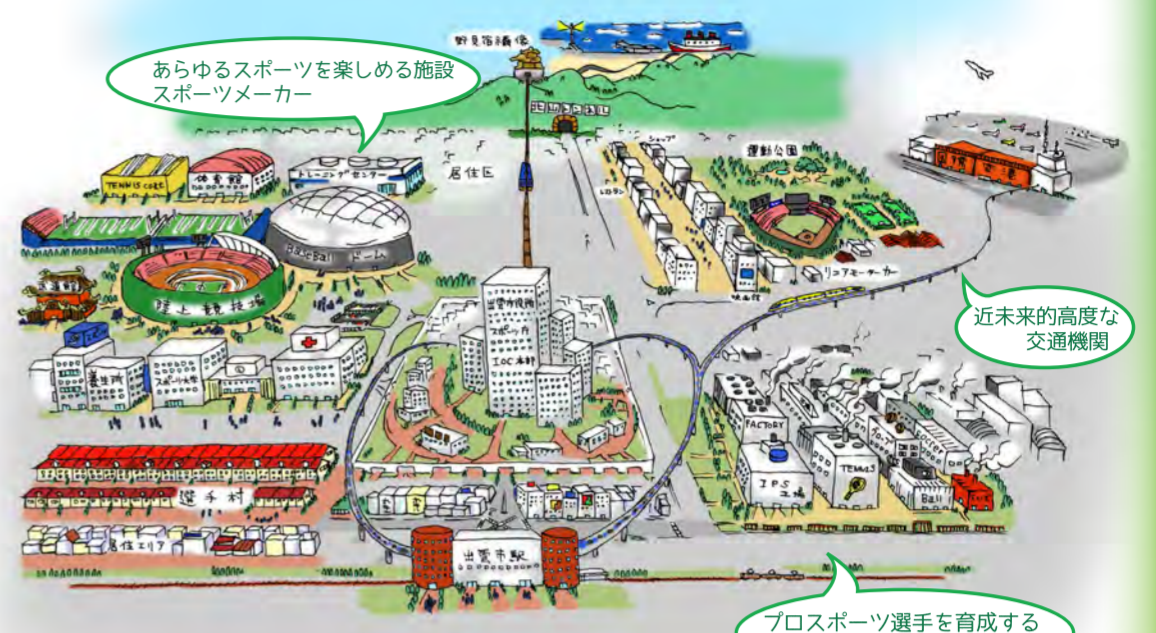


所見

この班では今ある街並みや魅力、強みを活かした堅実なまちづくりを行いました。着目したのは「相撲」という国技の発祥の地であり、今でも「野見宿禰わんぱく相撲大会」が開催される等、これからの出雲市の重要なファクターになり得るものをまちの形成にまで活かしています。

まちづくりモデルテーマ

世界のスポーツ都市出雲



あらゆるスポーツを楽しめる施設 スポーツメーカー

近未来的な高度な交通機関

プロスポーツ選手を育成する選抜子研究所



世界のトップスポーツから市民スポーツ、障がい者スポーツに至るまで全てのスポーツにひらかれた都市、スポーツの世界的拠点の街

街の施設

- ・スポーツ大学・スポーツ施設
- ・スポーツ庁・産業工場
- ・病院・人材育成機関
- ・エンタメ施設・選手村 など

街の特徴

・「世界のスポーツ都市出雲」とし、未来のスポーツ選手を目指す若者や、スポーツが好きな人々がスポーツを中心に、楽しく健康的に暮らせる街になっています。
 ・街にはアスリート育成に欠かせない施設が多数あり、一部一般公開をすることにより、プロスポーツがより身近に感じることが出来る様になっています。
 ・国際空港とリニアで結び、海外の選手の呼び込みや出雲からアスリート輩出、出雲の工場で作った道具の輸出などを考えています。



所見

この班にはまちづくりに関して知識・見識を持つ人が多く、それぞれで付与したい施設や機能等の考えを持っていましたが、スポーツ都市という枠組みの中でそれらを上手に盛り込みました。建物や機能を考えるだけでなく、配置計画・創出される産業や効果等もしっかりと計画立っています。

まちづくりモデルテーマ

Sports Entertainment No1 出雲(S,E,N,1)



海から直接、巨大リゾートホテルのそばへ神西湖へ入れる運河

象徴となる巨大リゾートホテル&スタジアムは雲を飛び越えた雲の上にある

出雲全体を周回するモノレール



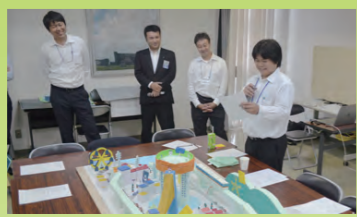
世界中のあらゆるプロスポーツが、世界最大規模で開催され、世界中のファンが来訪するスポーツエンターテインメントのまち、それを取り巻くものが全てが世界一を冠する世界最大の都市

街の施設

- ・巨大リゾートホテル・巨大球場
- ・世界一滑り台(空中道路)
- ・モノレール・巨大アウトレット
- ・巨大太陽光、風力発電所など

街の特徴

・スポーツエンターテインメントNO.1ということで、世界一の物が集まった街になっています。
 ・世界一を謳う様に、世界に類を見ない奇想天外な最大規模の建物が都市の中核にあり、街と空港と駅をモノレールが環状でつなぎ、海からはフェリーが直接ホテルに着くので、国内や海外からの交通アクセスに優れ、観光しやすい街のつくりになっています。
 ・街の電力は太陽光、風力発電に加え、この街で出たゴミで発電できる施設もあり、クリーンエネルギーで環境に良い電力を使用しています。



所見

この班ではとにかくダイナミックな都市を形成したいと考えスケールも神西、多伎、佐田、斐川、大社を入れた広大な範囲での巨大エンタメ都市を創造しました。特徴的な世界一の施設を無数に生み出し、アメリカのロスやニューヨーク、フランスのパリ等を凌駕する世界一の都市を目指し、楽しみながら考えました。

まちづくりモデルテーマ

3Cのまち出雲 (Compact.Community.Connect)



象徴のCタワーは巨大複合機関

郊外はレジャー施設

Cタワーを中心に環状に広がるあらゆる機能が効果的に集約してある街並み



3つのCが実現・相互作用し、まちが適切な規模に集約しており住民が日常生活を過ごしやすく、地域内で繋がりがよくする事で良好で強固なコミュニティを形成するまち

街の施設

- ・Cタワー・ロープウェイ
- ・環状道路・郊外レジャー施設
- ・地域住民コミュニケーションエリア など

街の特徴

・住民同士の繋がりと、外部から来た人と住民の繋がりを大切に3C(コンパクト、コミュニティ、コネクト)を実現した街です。
 ・タワーの周囲を住居・商業・ナイトビジネス・警察・消防が円周状に展開していて、これによりインフラ整備エネルギー消費・経済生産性その他が効率的に都市を形成しています。
 ・3Cタワーには行政、福祉施設が集積しており、そこから放射環状に広がる道路と、タワーと駅をつなぐケーブルカーにより、交通の便が良く、街の規模がコンパクトで適切なものとなり、その中に都市機能を集積する事で地域内の結び付きを強め良好なコミュニティが形成されると考えています。



所見

この班は「コンパクトシティ構想」の中で、住民同士の絆というものに着目し、いかに効率的で利便性が良く、人間同士の触れ合いや繋がりを強めることが出来るのかを考えました。「コンパクト」な中に、どんな付加価値が創造出来るかを見出しました。